

校長講話(防災・減災について)

- 今週の1月17日は、皆さんも知っていると思いますが 30年前(1995年)に兵庫県南部を中心発生した『阪神・淡路大震災』が発生した日です。
- 『阪神・淡路大震災』は、私が今まで生きてきた中で最も怖かった地震で、地震発生時に産まれて半年の娘の上に覆いかぶさったのを昨日のことのように覚えています。
- この阪神淡路大震災では、6,400人以上の方が犠牲となりました。早朝5時46分という時間帯で、まだ寝ている人も多かったため、家具などの下敷きになって亡くなられた方も多くいました。
- 阪神高速道路が倒れ、多くの家屋が倒壊し火災が発生して焼野原のようになった映像を見た人も多いと思います。
- 14年前の2011年3月11日に『東日本大震災』が発生し、約2万の方々が犠牲となりました。
- 私は、その当時大阪市役所で勤務していました。年度末のとても忙しい時期で、資料をしゃがみ込んで読んでいると床がぐるぐると回っているように感じました(東北で発生した地震を大阪で感じるくらいの大地震であった)。
- 自分でめまいだと思っていたら、その直後に東北で大きな地震が発生したとニュースが流れました。ニュースを見ていると、まるで映画でも観ているかのような信じられない“津波”の映像が流れてきました。“津波”の恐ろしさを実感した大地震がありました。
- また、昨年の1月1日には、能登半島で地震があり、「まさか、こんな時に！」と誰もが感じたのだと思います。地震はいつ起こるのか分からぬ怖さを感じました。
- 昨日の夜の9時過ぎに九州(宮崎)で大きな地震が発生し、南海トラフ地震との関係の調査を行ったというニュースがありました(宮崎と高知には津波注意報が発令)。
- このことを教訓とし、いつ『南海トラフ巨大地震』が発生してもおかしくないことを十分に理解しておく必要があります。
- 若い皆さんが生きている間に大地震が発生する可能性は非常に高く、確率も上がっています。被害は出ると思いますが、最小限に減らすことはできるはず(減災)です。
- 1月24日には、学年ごとで『防災教室』が開かれます。このような機会に、防災の知識をさらに身に付けていくことと、家族でも十分に話し合っておくことはとても大切なことだと思っています。